



兵庫県議員 中野 郁吾

ゆうご

躍動する兵庫をともに

2022年 早春号

ひょうご県政 NEWS レポート

発行者 中野 郁吾

〒662-0094 西宮市昆沙門町5番15号
Tel080-9161-1091 Fax0798-81-5152

兵庫を躍動させる、県民ボトムアップ型県政へ

日ごろより兵庫県政・県議会に、ご理解とご協力を賜っており、改めて心から感謝申し上げます。

激動の時代を迎え、昨年4月、志を同じくする県議会議員と共に「自民党兵庫議員団」を結団いたしました。そして8月には20年振りに知事が交代し、齋藤元彦知事による新県政がスタートしました。「ひょうごを前に進める」という齋藤知事の熱い思いを受け止め、齋藤知事が目指す「躍動する兵庫」の実現へ、ともに挑む覚悟です。

齋藤元彦知事は、就任早々から、コロナ対策に全力を尽くされているのをはじめ、選挙公約実現の司令塔となる新県政推進室を設置、若手起業家のスタートアップ支援、公民連携プラットフォームの開設、ワーケーション知事室の実施など、現場主義を徹底し、精力的な県政運営をされています。

県議会との本格的な論戦も始まり、9月及び12月の定例県議会では令和2年度決算案をはじめ、阪神地域の3保健所を中心に応援職員の増員を図るなど感染拡大防止対策の強化や、飲食店などへの協力金の増額等の補正予算案などを可決しました。さらに、選挙公約である知事給与を減額する条例、加えて、県議会議員としてコロナ

にお困りの皆さまに寄り添うため、総額で約8100万円削減することを全議員が合意（11月から3月まで5カ月分の政務活動費を15%カット等）、関係条例案を議員提案で上程、可決しました。

2月には第357回定例県議会が開会し、齋藤県政が本格スタートする令和4年度の基盤となる新年度予算案、行財政運営方針を見直した県政改革方針など、今後の県政を左右する重要案件が審議されています。

「守るべきものは守り、変えるべきものは必ず変える」。新県政の姿勢が県民一人ひとりに伝わるよう、議会としてより緊張感をもって県当局との議論に臨んでいます。

齋藤県政の基本姿勢である①開放性を高める(オープンな県政)、②誰も取り残さない(人に温かい県政)、③県民ボトムアップ型県政を前に進め、市民のみなさまが、ふるさと「兵庫西宮」に自信と誇りを持ち、いきいきと暮らせるよう全力投球いたします。そして、次代を担う子供たちのために、輝く未来を開く決意です。

今後ともご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



齋藤知事と共に躍動する兵庫を目指します

齋藤新県政スタート 議会と車の両輪となって果敢に前進



1



2



3



4

8月1日に着任した齋藤元彦知事は、県議会本会議での所信表明で、「私の使命は躍動する兵庫をつくりあげること。二元代表制の一翼を担う県議会の皆様とともに最大限の努力を払ってまいります」と宣言しました。この言葉を強く受け止め、是々非々で議論を進めることはもちろん、県政与党会派の一員として齋藤知事を支え、「県民ボトムアップ型県政」を前に進めてまいります。



4



8



5



7

〔写真左上から時計回りで〕①8月2日、齋藤知事が県庁に初登庁。②就任式などの後、自民党兵庫議員団の総会であいさつ。③9月定例県議会での齋藤知事が所信表明。④県会議場で自民党兵庫議員団と齋藤知事。⑤令和4年度 予算編成に対する申し入れ。⑥政調会で予算編成状況についてヒアリング。⑦「1.17のつどい」で震災で亡くなられた方に哀悼の誠を捧げました。⑧ワーケーション知事室を北播磨で初開催。紙すきを体験(写真:兵庫県提供)。⑨コロナ対策本部会議



6

令和4年度県予算案 「躍動する兵庫」へ 3つの視点 ~人・モノ・投資を呼び込む~

第357回2月定例県議会に上程された令和4年度県当初予算案は、新たに策定した「県政改革方針」に基づき、持続可能な行財政基盤を確立し、「躍動する兵庫へ～第一歩を踏み出す」ことを基本方針に編成されました。予算規模は総額で4兆2,482億円、対前年比で7.8%減となりました。

新型コロナウイルスへの対応を第一に、「躍動する兵庫」へ、3つの視点により、5つの柱で施策展開を図っていきます。

重点施策 5つの柱

- I 新たな価値を生む経済の構築
- II 安全安心社会の先導
- III 未来を創る人づくり
- IV 個性を磨く地域づくり
- V 県政運営の改革

新しい成長の種をまく

- ・スタートアップの育成強化
- ・中小企業等の革新 (DX人材の育成等)
- ・地場産業・農林水産業の新展開
- ・新たな観光戦略の推進
- ・水素社会の推進 (姫路港のCNP化等)
- ・特色ある学校づくり など

地域の価値を高める

- ・五国の魅力を高める地域創生の推進
- ・ひょうごフィールドパビリオン
- ・チャレンジ HYOGO 就職大作戦の展開
- ・スマートシティモデル事業の実施
- ・大阪湾ベイエリアの活性化
- ・スポーツ・芸術文化の振興 など

安全安心の網を広げる

- ・ヤングケアラー支援体制の構築
- ・発達障害児の保育園入園支援の拡充
- ・困難を抱える妊産婦の支援
- ・高齢者・障害者等の避難対策の推進
- ・災害に強い県土づくり
- ・防犯・交通安全対策の強化 など

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
これらを支えるSDGsにつながる施策群

釣りによる地域創生を提案 兵庫の豊かな海を生かして

コロナ禍の影響もあって、3密に該当しない屋外型アクティビティ、ファミリー向けのレジャーとして釣りが脚光を浴びています。京都大学の研究によると、丹後海を訪問する年間延べ約15万人の遊漁者による、総釣行経費は約38億円、海釣りの経済的価値から旅費などの経費を差し引いた消費者余剰が約117億に及ぶことが判明しました。瀬戸内海と日本海に挟まれ、広い沿岸部を有する兵庫県においても、海の豊かさや港湾施設を生かした釣りによる

地域創生を推進していくべきであると考え、昨年の県議会での一般質問において提案いたしました。

県当局からは、「県の管理している港湾や漁港、市町の管理されている港などについても、管理者が中心となって、地域の皆さんや市町とも協力をしながら、協議会の中で協議を進めて、活用を図っていく、そういう仕組みづくりをこれから検討していければ」との答弁を得ました。

今年の秋には、兵庫県の明石市で「全国豊かな海づくり大会」が開催されます。このような機会をもとらえて、釣りによる地域創生の機運が高まるよう、努力していきたいと思っています。



西宮総合医療センター(仮称)の整備

基本設計を発表 令和7年度の開院めざす

兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院の統合再編による新病院「西宮総合医療センター(仮称)」の基本設計が発表されました。

両病院のこれまでの診療機能を維持・充実するとともに、地域医療に関わる人材育成の拠点病院としての役割を果たし、西宮市域及び阪神圏域において安定的・継続的に医療を提供するため、兵庫県と西宮市が連携して整備し、令和7年度の開院を目指します。

【新病院の基本方針】

- ・高度急性期・急性期医療の提供
- ・救命救急センターとしての役割
- ・先進医療への対応
- ・感染症対応機能の充実・強化
- ・AI・ICTの活用
- ・医療従事者の育成拠点
- ・災害に強い病院
- ・安定した経営基盤の確立

新病院完成予想図 (国道2号からのイメージ)



【新病院の規模】

診療科目:35診療科、病床数:552床(一般病床544床、精神病床8床)

【施設計画】

- ・建設場所:西宮市津門大塚町(敷地面積26,000 m²)
- ・構造規模等(予定):① 病院棟(地上11階、塔屋1階)
- ② 放射線治療棟(地上3階)
- ③ 救急ワークステーション棟(地上2階)

武庫川の総合治水対策を推進

流域全体の安全・安心の確保さらに

全国的に豪雨災害が激甚化、頻発化しており、河川の事前防災対策の推進が求められています。武庫川の想定氾濫区域内には、二級河川でいずれも全国1位の人口・資産が集積しており、一度氾濫が起ると甚大な被害が想定されることから、その被害防止が急務であります。

県では平成23年に策定した河川整備計画で全国に先駆けて、河川対策、流域対策、減災対策を組み合わせた総合治水対策を策定し、重点的に整備を進めており、安全度は高まってきています。

一方で、顕在化しつつある気候変動の影響に伴うリスク変化を考慮して、想定先の取組についても計画的に進めていくよう、県議会本会議での一般質問などで要請してきました。

県としても、武庫川地域において継続かつ段階的に治水安全度を向上させていく必要性から、令和3年度から次期計画を見据えた基礎的な検討に着手しています。

今後とも武庫川流域の安全・安心の確保を地元県議として県や国に求めていきます。



兵庫県西宮土木事務所発行の冊子より